

第6回市民教室

本人の想いを通して認知症を正しく理解する

11月15日(木)蒼生病院にて第6回市民教室を行いました。今回の市民教室は社会福祉法人 慶生会の松原宏樹先生にお越しいただきました。今回も多数の方にお越しいただき満席となりました。講演では実際の現場の声とともに若年性アルツハイマー型認知症に罹患した方の貴重な映像を見ながらの講演となり、皆様ご自分の為、また家族のためにと熱心に参加されていました。

当院では今後も定期的に市民講座、市民教室を開催していきます。詳しくは改めてご案内をいたしますので、ぜひ次回もご参加の程、お願いいたします。この度ご参加いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



☆当日に会場内でされた質問の回答を松原先生から頂きました。

質問:認知症は本人の自覚はあるのでしょうか？

回答:その方の病気の進行状況に差はありますが、自覚がある場合があります。

認知はできていても、それを反応に表せない場合もあり、認知できていると伝わりにくいこともあります。

質問:ゲートボール仲間、場所がよくわからない人がいるが、認知症ですか？

回答:その方が認知症かどうかはそれだけでは判断できませんが、認知症の方は「人・場所・物」の認知において障害が出てくることはよくあり、わからないことに対して、自分の知識をもとに何とか解決しようと努力していることがあります。わからなくなっている人に誘導する声かけはしてもよいです。

☆松原先生より認知症予防のアドバイス☆

回答:認知症の予防策として「〇〇しながら××する」という「ながら行為」を行うことは有意義です。

たとえば「足踏みしながらしりとりをする」などのように、有酸素運動と頭を使って考えることを同時に行うことは大変良いでしょう。認知力が低下すると、二つの事を同時に行うことは難しくなるので、指標にもなります。

身体にお悩みがある方は受診または地域医療連携室にご相談下さい。

何かと至らぬ点もあるかとは思いますが今後ともよろしく願いいたします。

蒼生病院